

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・すべての学年において3観点で目標値を上回っている。特に、「思考・判断・表現」の観点において大きく上回っている。これは、習熟度別学習を展開し、自力解決の時間を確保し、互いの考えを伝え深め合う問題解決型の授業を継続していることによるものと考えられる。
- ・領域では、全学年において「数と計算」で伸びている。繰り返し学習プリントで基礎的な学力をつけた成果がでている。

(2) 課題

- ・長さ・重さでの理解が十分ではない児童が一部見られる。
- ・分数で数直線に示された分数の読み取りができていない児童が一部見られる。
- ・割合で百分率を理解し活用する力が身につけていない児童が一部見られる。

2 今年度の大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

※◎……目標値を上回った。 ○……目標値と同程度。

△……目標値を下回った。

	令和3年度結果	令和3年度結果	令和元年度結果
第4学年	◎		
第5学年	◎	◎	
第6学年	◎	◎	◎

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値より、大幅に上回っている。数量や図形についての知識・理解は十分身に付いている児童が多い。	・目標値より、大幅に上回っている。数学的な考え方は、十分身に付いている児童が多い。	・目標値より、大幅に上回っている。関心・意欲・態度は十分である児童が多い。数量や図形についての技能は十分身に付いている児童が多い。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値より、大幅に上回っている。数量や図形についての知識・理解は十分身に付いている児童が多い。	・目標値より、大幅に上回っている。数学的な考え方は、十分身に付いている児童が多い。	・目標値より、大幅に上回っている。関心・意欲・態度は十分である児童が多い。数量や図形についての技能は十分身に付いている児童が多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り上がりや繰り下がりのある計算方法を理解するために、「10 といくつ」を基にしてできることを指導して、基礎学力を高める。また、既習の「合わせて」や「減ると」などの用語を利用して立式できるようにする。 (指導計画・授業構成) ・ 既習の学習内容をより定着できるように、計算カード、プリントなどを活用する。 (指導計画・学習習慣) ・ 計算カードやステップ学習プリント、補充プリント、タブレット学習を実施し問題数を増やすことで、学習を定着させる。 (指導計画・学習習慣) ・ 身の回りのものに着目し、長さや水のかさを測ることを通して、単位を適切に選択できるようにする。 (授業構成) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直接比較や間接比較ができる場を設定し、体積や面積についての感覚を養えるようにする時間を確保する。 (指導計画) ・ 児童にとって身の回りにある具体物を使った操作活動を積極的に取り入れて理解を促す。 (授業構成) ・ 自力解決の時間を十分に確保し、時にはペアで考えを共有しあうことで思考力を育てる。 (授業構成) ・ 具体物から抽象物、数量に考えを移行することで、スムーズに思考できるようにする。 (授業構成) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体物や図などを用いて考えた過程を通して、日常生活に生かそうとするよさや楽しさを実感させる。 (指導計画・授業構成) ・ 時間や体積、面積等の量感を養うため、これらを実際に操作する機会を設ける。 (指導計画・授業構成) ・ 長さや水のかさを実際に測る活動を通して、単位の感覚を養い、楽しんで活動できるようにする。 (指導計画・授業構成) ・ 問題数を増やし学習を定着させることで正答率を高め、できる喜びを味合わせる。 (指導計画・授業構成) ・ タブレット学習を取り入れ、瞬時に成否が分かるようにすることで、問題に主体的に取り組めるようにする。 (指導計画・授業構成)

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 正確に問題内容を把握して解答できるようにするために、算数用語を正しく使えるようにする。また、考え方を伝え合うときには、既習の用語を必ず使うように指導する。 (指導計画・授業構成) ・ 既習の学習内容がより定着するように、ステップ学習や東京ベーシックドリルを活用した学習を継続して行うようにする。 (指導計画・学習習慣) ・ 正確に問題内容を把握して解答できるようにするために、算数用語を正しく使えるようにし、考え方を伝え合うときには、既習の用語を必ず使うように指導する。 (指導計画・授業構成) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考えを広げ、新たな事柄に気付けるように、表現の手段を選択したり、視点を明確にしたりして、考えを伝え合ったり検討したりする時間を確保する。 (指導計画・授業構成) ・ 正しく演算決定ができるよう、問題文の読み方を指導したり、既習事項を確認したりする。また、図に表したり、具体的操作を取り入れたりして理解を促す。 (授業構成) ・ 考えを広げ、新たな事柄に気付けるように、表現の手段を選択したり、視点を明確にしたりして、考えを伝え合ったり検討したりする時間を確保する。 (指導計画・授業構成) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が意欲的に取り組み、達成感を味わえるように、課題設定や問題提示の仕方を工夫し、児童の発言を認めながら、適切な考えや解決方法に導いていく。 (指導計画・授業構成) ・ 時間や長さ、面積等の量感を養うため、これらを推測する機会を定期的に設ける。また、生活で用いられる道具と関連付けて指導する。 (指導計画・授業構成) ・ 児童が意欲的に取り組み、達成感を味わえるように、課題設定や問題提示の仕方を工夫し、児童の発言を認めながら、適切な考えや解決方法に導いていく。 (指導計画・授業構成)

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・正確な作図ができるように、図形の性質を理解させる。 (指導計画・授業構成) ・分度器やコンパスなどの用具を正しく扱うことができるように習熟を図る時間を設ける。 (指導計画・授業構成) ・児童が系統立てて理解できるように、単元に関わる既習事項の確認や、本単元やその先の見通しをもたせられるようにする。 (指導計画・授業展開) ・問題文から正しく立式できる力を育てるために、児童が問題場面の数量の関係を数直線図や4マス関係表などに置き換える活動を意図的に取り入れる。また、その有用感を児童自身が実感し、問題解決で活用できるようにする。 (指導方法) ・既習事項の定着を図るために、タブレットドリル等を活用した学習を継続して行う。 (指導計画・学習習慣) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決の時間を十分に確保し、自分の考えを、言葉、数、式、図、数直線、記号、表、グラフなどを用いて表し、説明できるようにする。 (指導計画・授業構成) ・他者の考えと似ているところ、違うところを比べ、より良い考えの再構築を図る。 (指導計画・授業構成) ・統合的、発展的に考える力を育てるために、児童に複数の事象を比較させたり、既習事項と関連付けて思考させたりする場面を設定する。また、発問の工夫によって、児童の思考や気付きを引き出すようにする。 (指導方法・発問) ・論理的思考力や豊かな表現力を育てるために、自分の考えを文章、式、図、表などを用いて表現し、対話を通して他者に筋道立てて説明する活動を取り入れる。 (指導方法・授業展開) 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書を積極的に活用し、図形の展開図など操作することでイメージをもちやすくし、苦手意識がある児童たちも関心をもつように工夫する。 (指導計画・授業構成) ・間違いを恐れず、粘り強く素直に自分の考えをもつ児童に育てるために、結果主義ではなく児童一人一人が考えた過程を大切にしたい指導を行う。 (指導観) ・学びに向かう力を育てるために、問題との出合わせ方を工夫する。児童の実態や日常生活と密接に関わる問題を提示し、自分事として考えられるようにする。また、児童の困り感を出発点としてめあてを掲げ、全員で学び合う授業をつくる。 (指導方法・授業展開)

4 今年度授業改善プラン成果と課題

(1) 成果

- ・タブレット学習を取り入れたことで、瞬時に成否が分かり主体的に取り組む姿が見られた。(1年)
- ・水のかさや長さ、大きい数の学習では、具体物を使った体験的な活動を行ったことで、単位の感覚を養い、楽しんで活動することができた。(2年)
- ・演算決定の根拠を明確にするために、問題文の分かっていることや求めることに線を引いたり、演算決定の部分を囲んだりできた。(2年)
- ・タブレット学習を取り入れたことで、その場で正解が分かり、学習に対する意欲が高まった。(2年)
- ・タブレットでの形づくりの学習では、デジタルで色板を組み合わせ、様々な模様を作ることができてよかった。(2年)
- ・算数用語を正しく使用し、既習の用語使って考え方を伝え合うことができた。(3年)
- ・ステップ学習や東京ベーシックドリルを活用した学習を継続して行うことで既習の学習内容を定着させることができた。(3年)
- ・正しく演算決定ができるよう、問題文の読み方を指導したり、既習事項を確認したりすることができた。また、図に表したり、具体的操作を取り入れたりして理解を促すことができた。(3年)
- ・児童が意欲的に取り組み、達成感を味わえるように、課題設定や問題提示の仕方を工夫することができた。児童の発言を認めながら、適切な考えや解決方法に導いていくことができた。(3年)
- ・演算決定のために数直線にかくという意識付けをすることで、正しく演算決定できるようになった児童が増えた。

(4年)

- ・単元によって習熟が足りないときは、追加で習熟の時間を設けたことで、四則計算等の技能が身についた児童がいた。(4年)
- ・単元に関わる既習事項の確認や、その先の見通しをもてるように指導してきたことで、児童が学習課題に対して、既習事項を活用できるかを確かめる姿など、系統性をもって考えようとする姿が見られた。(5年)
- ・児童が問題場面の数量の関係を数直線図や4マス関係表などに置き換える活動を意図的に取り入れたことで、児童が問題文から正しく立式し、自力で問題解決をしようとする姿が見られた。(5年)
- ・東京ベーシックドリル、ドリルパークを活用し、反復練習を行ったことで、知識・技能がより定着した。(6年)
- ・デジタル教材を積極的に活用し、スライド等で問題場面を動くようにして提示するなどしたことで、問題場면을想像することが難しい児童に、問題場면을イメージしやすくした。(6年)
- ・児童のつまづきを把握し、学年を遡って既習事項を一つ一つ振り返ったことで、既習事項と学習内容を関連付けながら学習する児童が増えた。(6年)

(2) 課題

- ・具体物の操作を積極的に取り入れたいと考え、個人持ちのブロックは活用できたが、教具(色板や時計)がクラス分、同じ物が揃っていないため、単元によっては活動の時間を十分には取れなかった。(1年)
- ・タブレット学習は成否が即時に分かったり、何度でもやり直しができたりするが、じっくり考えることや書かないため「なんとなく取り組んだ」ことになってしまいがちだった。適宜使用する内容を見極めることが必要である。(1年)
- ・タブレット学習は、単元によっては活用しにくいものがあったので、使い分けが必要だと感じた。(筆算や長さなど)
- ・計算カードで繰り返し練習したりする活動は、もう少し時間が取れるとよい。(2年)
- ・考え方を伝え合うときに、既習の用語を十分に使っておらず正確な問題内容の把握が不十分である。(3年)
- ・考えを広げ、新たな事柄に気付けるように、表現の手段を選択したり、視点を明確にしたりするための、考えを伝え合ったり検討したりする時間の確保が不十分である。(3年)
- ・時間や長さ、面積等の量感を養うため、これらを推測する機会を定期的に設けられていない。また、生活で用いられる道具と関連付けての指導が不十分である。(3年)
- ・数直線そのものの意味が理解できていない児童にとっては、数直線をかきこと自体が負担になっているようだった。(4年)
- ・基本的な四則計算が身に付いていない児童は、わり算の筆算に苦手意識をもっているようだった。(4年)
- ・習熟度のばらつきが大きく、同じコース内でも習熟状況の大きな差があることが多かったため、興味や関心を十分に高めることができなかった児童もいた。(5年)
- ・デジタル教材等で問題場면을把握しやすくしたが、実際に具体物を動かさないと理解が難しい児童もいたため、児童によって具体物操作をする機会を作る必要がある。(5年)
- ・単位換算につまづきのある児童が見られた。単位量を体感できるような教材の工夫・開発をより行う必要があった。(6年)